

第2回 恵庭創生懇談会（要旨）

（第2回）

議題：（1）地方創生推進交付金について（2）恵庭市まちづくり拠点整備事業について（3）恵庭市総合戦略に基づく主要施策の概要について

日時： 平成28年8月31日 15:00～16:50	場所： 恵庭市役所3階 301・302会議室
出席者： 北海道大学公共政策大学院特任教授	小磯 修二
恵庭工業クラブ サッポロビール(株)北海道工場 副工場長	増淵 隆昭
北洋銀行恵庭中央支店長	小松 節男
北海道銀行恵庭支店長	高橋 克巳
恵庭市政記者クラブ 千歳民報社 代表	大澤 雅松
連合北海道恵庭地区連合 会長	梅津 俊一
千歳公共職業安定所 所長	葛西 春季世
北海道文教大学 副学長	橘内 勇
北海道石狩振興局地域政策部戦略策定支援担当部長	田辺 きよみ
作成部署： 企画・広報課 総合戦略担当	作成者： 中山 真

議事録内容(1/7)

	会議次第
	1. 開催あいさつ
	2. 市長あいさつ
	3. 議事
	(1)地方創生推進交付金について
	(2)恵庭市まちづくり拠点整備事業について
	(3)恵庭市総合戦略に基づく主要施策の概要について
	4. その他
司会	大槻企画振興部次長による第2回恵庭創生懇談会開催あいさつ。
原田市長	原田恵庭市長あいさつ。恵庭創生懇談会出席お礼。総合戦略は新たな情報の基で、新たな政策の展開を考えなければならない。そのため毎年度、見直し・変更する必要がある。また、これまで恵庭市単独の通常予算では展開できなかったような新しい事業もある。例として、恵み野北5丁目の移住、転入促進事業について紹介。そのような事業の効果・検証についてもご意見をいただきたい。今後とも皆様方のご支援をお願いしたい。
司会	恵み野商店会会長 小笠原委員、学校法人産業技術学園 事務局長 切明委員の2名の欠席を報告。 本日の議題・資料について確認。 以降の司会については、小磯座長に依頼。
座長	小磯座長あいさつ。地域の実情に合わせた総合戦略の進捗管理の重要性を説明。 恵庭市の戦略、事業への取組みと向き合う姿勢に関心する。 引き続き委員の皆様にはご協力をお願いしたい。 議事(1)地方創生推進交付金について、事務局からの説明を求める。

議事録内容(2/7)

	【議題(1)地方創生推進交付金について】
事務局	平成28年度の国の予算額は1,000億円、補助率は2分の1のため、事業費ベースでは2,000億円の事業費となる。 6月下旬に国の第1次申請があったが、予算額1,000億円に対して内定額は184億円という状況であったため、要件が緩和。 地方創生推進交付金を申請予定である3つの事業、①対恵庭直接投資継続拡大に係る推進事業、②静岡県藤枝市との農商工連携に関して連携した事業、③恵庭市まちづくり拠点整備事業について紹介し、9月下旬の国の第2次申請に提出することを報告。
座長	②静岡県藤枝市との連携の農商工連携というと、どのようなイメージか。
市長	平成28年3月に静岡県藤枝市と友好都市を結び、藤枝市から推進交付金を活用して連携事業を実施しようとの提案があった。
事務局	具体的な連携事業の内容は調整している最中である。地方創生加速化交付金の中でも6次産業化等の取組みはそれぞれ独自に行っていたが、それを連携して互いにWINWINになるような取組みの可能性を探って、調整している。
市長	商品化等は今までも行っていた。藤枝市はお茶が特産。恵庭市にも色々な農産物がある。 お互いの物を使いながら商品化をするということを引き続き行なう。 それと、健康のまちづくりということも提案しているが、まだ話し合いの段階である。
座長	姉妹都市交流、友好都市交流は移住交流の促進に繋がっていく。農商工連携という具体的な地域の生産資源、付加価値を高め、そういう交流に繋げる流れは非常に大事。例えば北海道の訓子府町が高知県の山林の市と姉妹都市交流をしていて、高知県は杉の名産地で、お互いの生産物を使った施設を相互に造って、魅力を高めていくとかなりの経済的な価値を生む。 このように交流を進めている事例もありますし、ぜひ中身をしっかりと詰めていかれるといいと考える。
A委員	今の話で、商品化する、食堂みたいなことをやるとかを、実際に具体化するの民間でやると思うが、それに対して、支援するようなことをするために補助金をもらうということになるのか。
市長	商品開発、あるいはその販売のお手伝いとかになるかと思う。もちろん、商品を作るのは民間になるが、そういったようなことをどう売っていくのかというようなことも含めて農商工連携のネットワークを活かしてそこと藤枝市と連携しながら支援、助成をしてやっていくことになる。
座長	行政の役割とは、出会いの場作り、結びつけるとかそういう部分で、直接事業にというのはなかなか難しい。 でも、その出会いの場作りは大事。藤枝市で恵庭の資源を活かすような技術を持っておられる企業や人がおられれば、そういう方達と交流を通じて磨き上げて行くことも可能だと考える。 次に、議事(2)恵庭市まちづくり拠点整備事業について、事務局からの説明を求める。
	【議題(2)恵庭市まちづくり拠点整備事業について】
事務局	恵庭市まちづくり拠点整備事業の全体イメージ、大きく3つの事業(①仮称花のビレッジ、②工場団地の用途拡大、③駅周辺の賑わいづくり)について説明。この3つの事業を複合的に絡めることで、職・住・観光機能の拡充が図られ、人口減少に負けない魅力あるまちづくりが進んでいくという考えを示した。
市長	まちづくり拠点整備事業については、平成23年に策定した都市計画マスタープランが大元になっている。 恵庭駅西口の市のまとまった土地を活用して、複合的な施設を民間の力をお借りして造り、駅周辺の賑わいをつくろうというもの。 工業団地については、新しい工業団地の開発、用途拡大も含めて、可能性調査を行なう予定である。 拠点事業には公共施設の集約、若者の雇用を生む等、様々な複合的な効果を期待している。
座長	工業団地への新たなニーズ、要請の動きを、何か市として受け止めているか。
市長	1つは東日本大震災以降、首都圏では機能の一部を北海道に移したいという動きがある。 もう1つは設備投資の機運が少しずつ出てきているように感じる。札幌では手狭で、どこか他にないかという問い合わせもある。 恵庭市や近隣のまちをみても、以前に比べて工業団地の需要が多く、好調な状況になってきていると感じる。

議事録内容(3/7)

座長	<p>北海道の企業立地の動きをみると、2つほど動きがあると感じる。</p> <p>1つは東日本大震災以降、生命保険業界や製造業にリスク分散の動きが見受けられる。</p> <p>大都市圏に集中している機能を北海道で受け止める北海道のバックアップ拠点構想という会議の座長を務めた時に、色々な企業からリスク分散に向けての相談を受けた。その時の経験で、ただ単に土地を探すのではなく、企業を受け入れてくれる政策の受け入れ。バックアップ拠点構想ということで、リスク分散に来る企業に対してサポートするの来てくださいというような政策があるかないかというところが非常に大きいと感じた。企業立地で一番大事なのはフォローだと考える。</p> <p>まちづくり拠点整備プロジェクトの中で、都市の拠点と、花づくりなど色々なものを総合的に魅力のある空間づくりとして進めていくというメッセージを政策として発信すると、企業誘致に繋がっていく、大事なまちづくりの政策だと考える。</p> <p>もう1つの動きは、食料品製造業。今、生産地は原材料供給だけではなく、生産地で原材料の確保、販売まで行なうという動きがある。この動きは札幌都市圏だけではなく、道東とか色々な地域まででできている。</p> <p>そういう面での受け皿として、恵庭の立地条件は空港、札幌都市圏に近いという立地特性を活かした戦略は大いに可能性がある。</p>
B委員	保健センターの移転について、市民の反応はどうか。反対意見等はでているのか。
副市長	<p>今の保健センターの場所について市民の声としては、少し離れている、何もないから不安という声は聞こえていた。</p> <p>移転することについては、近隣の町内会をはじめ、困るというような意見は聞いていない。ただ、利用者はお子様の検診や成人、あるいは高齢者の検診など、車を利用する方が多いため、新しい所に駐車スペースなど確保できれば、今考えている移転先は全市的にも中心になり、恵庭駅にも近いことから整備はしっかりされるのかなと思う。</p>
B委員	<p>保健センターの移転場所についてはとても良い場所に思われる。</p> <p>但し、恵まれた場所であるため、現在行っている祭等のイベント会場として、その後の配慮も必要では？</p>
副市長	今までイベント会場だった空間が無くなることについては、少し対策を考えないといけない。
座長	あといかがでしょうか。
A委員	駅周辺の賑わいづくりの民間施設誘致はホテルのことが。
市長	今、考えているのは民間の力を借りて、建物を建てていただいて、公共施設が間借りして入るということ。
A委員	PFIのような？
市長	民間に建物を建てていただいて、子どもの施設、保健施設というものを中心に市民活動センター、図書館等の機能を集約し、本当に複合的な建物にしたいと考えている。土地は市で持っているため、建物の賃貸を含めた提案型で民間にお示しをしたい。駅前通りの非常に場所の良い所であるため、応募をしてくれる民間の方々もいるのではないかと考えている。
A委員	定住人口、交流人口で、恵庭の周辺にある北海道の中でも評価の高い医療施設と連携して、メディカルツアーのようなもので外国から膝の悪い方が来て治療するとか、そういう使い方ができたらいいと思っていたが、そうではないのか。
市長	今のところそのような考えはない。しかし隣接地には土地、誘致施設もあるため、そういったことも考えられないこともない。高さ、量的にも今の建設予定の施設では無理なのではないか。
座長	あといかがでしょうか。
市長	<p>花の拠点整備について今、道と川の駅では年間約100万人が来ている。</p> <p>かのなという野菜の産直が年間で約4億4000万円の販売額があるということで、大変多くの方々に来ていただいている。</p> <p>そのような財産を大切に、恵庭は花のまちと言われるが、どこに花があるんだとも昔から言われている。</p> <p>公共的な広がりを持った花を見るところを提供したいということも含めて、今の道の駅の周辺に展開するというのが花の拠点整備で、そしてその拠点施設として、今の保健センターの場所を利用していききたいと考えている。</p>

議事録内容(4/7)

座長	<p>恵庭市まちづくり拠点整備事業は、これからのまちづくりにおいて道と川の駅花の拠点、駅の都心活用、工業団地など、個々で持っている取り組みの価値を全部合わせることによって、新たな価値が生まれ、それらを職・住・観光という形で、トータルにまちづくりとして進めていこうという非常に大事な部分になってくる。これまで道と川の駅だけで進めていたことが、工業団地や駅の複合化の取り組みの個々の部分を結びつけたら、新しい取り組みができるとか、そういう議論を呼び起こすと考える。恵庭市まちづくり拠点整備という平凡な名前の変更を薦める。名前で関心を引き寄せることもできる。</p> <p>続いて、議事(3)恵庭市総合戦略に基づく主要施策の概要について、事務局からの説明を求める。</p>
	<p>【議題(3) 恵庭市総合戦略に基づく主要施策の概要について】</p>
事務局	<p>恵庭市では、総合戦略の進捗を毎年度検証し、検証結果に基づいた総合戦略の見直しを行い、状況に応じた施策を実行していくPDCAサイクルの確立により、総合戦略の基本目標達成に向けた継続的な改善を推進していくこととした。</p> <p>そこで、総合戦略の体系に基づいた恵庭市における事業展開を検証し、総合戦略を改定していきたいと考えている旨、報告。</p> <p>恵庭市総合戦略に基づく主要施策の概要の説明。</p>
座長	<p>総合戦略は実際の地域の方向性、地域を取り巻く環境の変化に合わせて、新しく見直し改定していくということ。</p> <p>この機会に委員の皆様から、政策の追加や進め方についてご意見、ご発言をお願いします。</p>
A委員	<p>千歳民報の記事について紹介。千歳市で再来月から日本版ネウボラというフィンランドの子育て支援施策のやり方を取り入れるとの内容。恵庭市も日本版ネウボラを取り入れるのか、あるいは恵庭の独自のやり方で行なうのか、お聞きしたい。</p>
市長	<p>ネウボラについては、議会でも議論があった。千歳市の取り組みも参考にし、勉強していきたい。</p> <p>恵庭市もそれぞれ子育て支援施策を行なっているが、ネウボラのようなパッケージをつけてはやっていない。</p> <p>勉強していく中で、良いものだとすれば今後、総合戦略に盛り込んでいくこともあると思う。</p>
A委員	<p>先ほど座長のお話があったように、それぞれ子育て支援施策をやっていますというよりは、事業におしゃれな名前をつけて、ネウボラのように聞いたことのないような名前をつけることで注目されるような効果があると思う。</p>
副市長	<p>どこの市町村も遜色ないくらい子育て支援施策を行なっているが、一つのパッケージとしてこういう風に取り組んでいますとのPR面も大事なところ。検討したい。</p>
座長	<p>非常に大事な議論である。パッケージとしてトータルで取り組みを進めているというネウボラと、個別に取り組むやり方との違いはネウボラというパッケージの政策としてどうなんだという議論をする場があるのは大きい。</p> <p>全体のトータルプロジェクトとして、しっかり管理していくという進め方をしていくと、双方に問題点や共有する場が増えてくる。</p> <p>そこにパッケージ政策の意味があると思う。</p>
市長	<p>まちの行政は本当に複合的になっている。ネウボラについても、色々な分野の仕事が入っている。</p> <p>そのため、全員で1つの塊として考えて、協力して良い方法を求めていかなければならない。</p>
座長	<p>ネウボラの場合は育児までだが、結婚から定住まで他の地域には無い恵庭独自の1つの政策で、取組まれてはどうか。</p>
C委員	<p>恵み野北のノースガーデンと花のヴィレッジの裏にある住宅地のコンセプトの違いはあるか。</p> <p>また、イメージはどのような感じか。</p>
副市長	<p>提供する1宅地の面積が全然違うため、花・庭造りを積極的にやる方が購買層になると考えている。</p>
C委員	<p>ブレスドガーデンに近いようなイメージか。</p>
副市長	<p>そうである。面積は若干減るが。</p>

議事録内容(5/7)

企画振興部長	現在、恵庭市で市街化区域を拡大して住宅地として確保していいのは170人分の権利しかない。 単純に1区画1家族3人～2.5人で計算すると、60区画までできるかできないかが限度である。 その170人の人口フレームだと、約1区画120坪くらいになるため、畑や庭か何かができる客層の方が来ると考えている。
C委員	以前、新聞記事で拝見したが、店舗併用した住宅というのはまた別なのか。
企画振興部長	難しいと思うが多少時間がかかっても、店舗併用住宅ができるようにと考えているが、厳しい。
C委員	売れるのか、若干心配である。
市長	民間の開発者と地主との関係もある。こういう開発をしたいということもある。 そうした事業者の希望等を聞きながら、私も都市計画上でできることはしたいと考えている。
座長	あといかがでしょうか。
副座長	就労促進の関係事業について質問させてください。若年者のところ、就職促進事業36番の関係で、高校生セミナーや合同企業説明会には、実際の程度、若者が集まったのでしょうか。また、子育て支援の少子化対策推進事業に関連して「企業の子育て認証制度」についてですが、少子化対策を進める上では直接的な子育て対象の方への支援の他に、企業側へのアプローチも大事だと思いますが、この事業の進め方について教えてください。
事務局	合同企業説明会を8月6日に、高校生セミナーを7月末に開催して、高校生セミナーで来た生徒を合同企業説明会の方に繋げたいと考えていたが、高校生の就職が非常に良いということで、ほとんどの高校生が7月中に決まってしまったというような状況であった。そのため今回の合同企業説明会には高校生はほとんど来なかったという報告。 事務局でも高校、ハイテクノロジー専門学校、文教大学の方にもお伺いしてお話を聞いたが、今年は非常に就職が良いということ。求人票も増えている。若年層を地元に着させたいと考えるが、外に出てしまうという就職もあると聞いた。
市長	できるだけ中学生、大学生に恵庭市にはこういう企業があると知ってほしいという思いがある。 中学生と大学生を対象にバスツアーも行なっているが、非常に好評だったと聞いている。
経済部次長	今回の合同企業説明会は去年よりも多い34社の企業に参加していただき、地元企業ばかりであった。 開催時期は去年より早い時期に行なったが、参加した学生が去年の半数ほどで、約100名の参加だった。
D委員	景気が良くなると、条件が上がるため、学生にしてみれば条件が良い企業に就職して、出て行ってしまいう傾向がある。
市長	高校生の来春の就職はかなり決まっているのか。
D委員	協定上、選考開始が9月16日のため、決まっているということはない。求人の受理は6月20日開始で、早めに求人を出さないと良い生徒を確保できないとわかっている企業はもう出している。多分、決まってるというのは自分がどこに応募するかをもう決めたという意味だろう。特に高校生は大学生と違い、いくつも内定を得て自分の好きな企業を選んで、ほかの内定を蹴るということができない。そのため先生との話し合いで、求人票を見て決めてしまうと他に見向きできない。そういう影響だと思う。
市長	なんとかUターンも含め、恵庭で職場を求めてほしいという思いがある。 色々工夫してバスツアー等をやっているところだが。
D委員	北海道から関東圏の大学に行っている学生が結構いるが、北海道の地元に残っている人達に比べると、地元に戻って就職したいと思っても、情報があまり入らないという話を聞いたことがある。北海道の大学に企業が直接求人を持っていくケースもあるそうだ。そうすると、他の学校やネットでは求人があることはわからない。そこをなんとかしてあげないと戻って来たいという学生がいる中で、就職等の情報がわからないため、戻って来れなく、関東圏にそのまま就職してしまうケースが相当数あると聞いている。

議事録内容(6/7)

市長	道外の学校に行っている人の親に、こういう良い仕事が恵庭市内にあるよという情報が届くと、親が子どもに紹介してくれる可能性もある。
D委員	恵庭市で高校卒業して転出していった人達はだいたい学生だとわかると思う。その情報を利用して、例えば工業団地で技術者が大卒の技術者がほしいとなったら、理工系の大学に行ってるであろう人に情報を恵庭市から送ってあげるとかできれば、道外から戻ってきてくれるかもしれない。
座長	今の話はこれからの地域における地元人材の地元企業への雇用に繋げていく大事なこと。恵庭の政策として持っている情報をうまく活用して、道外でお仕事されていて戻って来られたい方とか、そういうネットワークづくりというのは、これから大事な地域独自の雇用政策に繋がっていくのではないかな。
事務局	副座長の質問、企業の子育て認証制度の関係について回答。 企業側が子育ての優しい心を認証するという制度であるが、まだ制度的な取り組みは進んでいない。実績は無い状況。
座長	あといかがでしょうか。
企画振興部長	4、5年前から移住定住フェアを開催しているが、3年前から住宅の紹介のほかに、就職情報を紹介すると、極めて人気がある。住宅はどこでもいい。とにかく仕事があれば移るという方が多い印象。
D委員	1番は生活の糧、費用を稼げる道があるかどうか。その確保が1番。
企画振興部長	移住定住フェアに来る方の年代は幅広い。中には30代、40代でお子さん連れの若い方もいた。道内の30市町村ほどがいたが、恵庭市、千歳市のブースに相談に来る方が多かった。交通の便が良いことなど知っていた。雇用問題の相談が1番、移住定住で多いと思う。
座長	例えばオホーツクの紋別市は、空港にこの企業はこういう人材を求めていますというパンフレットが置いてある。ハローワークというルートに加えて、地域でできることは色々ある。工夫して発信していくことが大事。あといかがでしょうか。
E委員	工業団地の用途拡大は、いつ頃着手して、いつ頃完成されるイメージか。
企画振興部長	すでに経済部の方で意向調査をしているが、実際にできるのは2年くらいかかるかもしれない。
E委員	新たな工業団地の開発の検討とあるが、事実上撤退しているような用地がある。そこを拡大することにより、その部分を復活させることは可能か。新たな工業団地の開発の検討は用途の拡大とリンクするのではないかな。
企画振興部長	工業団地の拡大では、若干の物販ができるようなことも新しく考えている。撤退したけど買い手がみつからないというところで、新たな買い手がみつかる可能性もあるが、工場撤退した後に売れてない原因は評価の逆ざや的なものが多いと聞いている。今の工業団地はだいたい公示価格で坪3万円ほど。ところが実際には5、6万円を買っているため、企業側として赤字処理をするか、もう少し待つかというところがある。その影響で、遊休地を転がしてまとまった状況になったと考えている。
市長	そういう状況であっても、かなり進んでいる。遊んでいる土地は少なくなってきた。新しいところについても可能性調査していくということ。
座長	先ほどふるさと納税の話があったが、企業版ふるさと納税に向けては、恵庭市として何か検討されているか。
市長	これから対象になるような具体的なもの、それに対する企業の意向を考えていこうと思っているが、今の段階では具体的に考えていない。

議事録内容(7/7)

座長	<p>個人版のふるさと納税が返礼品ブームもあり、急激に増えているが、本当に安定的な制度かは疑問である。</p> <p>その中でも、企業版のふるさと納税は返礼品がない。その地域の取り組みに共鳴した企業が寄付をして、その企業に関しては6割控除され、企業にとってもメリットがある。国の中で1番お金を持っているのは民間企業、大企業。その力を地域のまちづくりの財源にしっかり生かしていくというのが、これからの地域政策に大事な流れになっていくと思う。</p> <p>ところが、今の企業版ふるさと納税の制度だと、非常に厳しくて、公募もできないという制度になってしまっている。</p> <p>地方にとっては新たな財源はものすごく大事で、特に北海道は食糧の生産地でもあるので、食糧を生産・販売する企業との繋がり等色々な形でふるさと納税の寄附を得られる可能性は非常に高い。</p> <p>そういう現状に対して、企業版ふるさと納税の制度の重要性を考え、しっかり地域として受け止めていけるような制度改革が必要。そういう方向で、声を上げることが大切。</p>
市長	自治体も企業も、お互いを高めるように進めることになると思う。今後に向けて検討、研究していきたい。
座長	<p>なかなか思い通りにいかないと思うが、恵庭市の持っている地域の魅力であれば、協力していただける企業はあると思う。</p> <p>あといかがでしょうか。</p>
B委員	観光振興について、宿泊施設の推進をどのように考えているか。
市長	台湾に行った時も、宿泊施設について投資をできないかという話をした。色々なルートを使って恵庭に宿泊施設、ホテルをつくっていただきたいと働きかけているが、具体的なものが出てこない。恵庭の恵まれた立地をホテルの様々な団体にアピールして、がんばらなければならないと思っている。
B委員	企業が多く、出張で恵庭に来る人も多いが、泊まる場所がない。もったいないと思う。
座長	<p>例えば倶知安町の比羅夫地区では、海外からの投資の宿泊施設、ホテル、コンドミニアム等はほとんどが個人的なネットワークで色々な形で繋がっている。台湾の投資戦略のようにアプローチする中で、情報が届くところに、しっかり情報を届けることが大事。</p> <p>個人的な人脈でも何でもいい。恵庭出身の人、恵庭に関わりのある企業で台湾でビジネスをやっている人、この人のところに行けば、恵庭市へ関心を持ってもらえるとか。そういうところから、投資戦略、プロモーションをやるといいと思う。</p> <p>台湾は北海道に対して、親近感のある投資力を持っている。恵庭の情報を活かした個別の戦略で動いてみてはどうか。</p>
市長	<p>興味を持ってくれる会社はあるが、大きい投資となると反応が薄れる。</p> <p>建物があるなら関心を持ってくれるが、恵庭にはない。土地を紹介したりしている。</p>
座長	<p>1つ成功事例が挙げると相乗効果が生まれる。単に建物を建てるだけではうまくいかないで、それをしっかり管理して、安定的な利益を生み出していくという運営マネジメントやビジネスモデルも必要。札幌と連携していけば恵庭にも可能性が十分ある。</p> <p>最初は難しいと思うが、がんばっていただきたい。</p> <p>あといかがでしょうか。最後に事務局から何かあれば、どうぞ。</p>
事務局	<p>次回、第3回恵庭創生懇談会は12月中旬から12月下旬頃を予定。</p> <p>日程については、追って連絡したい。</p>
座長	第2回創生懇談会の終了。